

生活環境グループ／第1回会議(キックオフ) 報告書

日時：2025年9月14日(日) 10:00～12:00、オンラインシステム(Teams)にて開催

出席：EC千葉会員 11名

議題

1. 集まったテーマの検証

- ・生活環境のテーマに取り組むにあたり、どのようにみんなを巻き込んでいくか？ が本日の議論の一つと思う。

ウェルビーイングに対して、環境カウンセラーの資格を持っている会員が活躍できる場をどのように作っていくのか？ 専門的な知識を持っている人々がどのくらいいるのか？

- ・市民活動など外に対しての活動、EC千葉としての活動を取りまとめていく。自分たちだけでなく、誰に向かって活動していくのか？ 市民であり、行政であり、学校であり、どういう風に話を持っていくか、が大事と思う。

- ・現在のEC千葉の活動を含めた生活環境に着目し、もっと広く活動しようとしているのか？

- ・新しいテーマとしてウェルビーイングが出てきたので、個人ベースの話と組織としての話とを分けて考える。EC千葉として、どのような位置づけにしていくか？

活動するにあたっては、原資の問題とか組織の問題とか出てくる。体制など見極めながら、スケジュールを決めて進めていけばいい。

- ・八千代市にある「八千代ユネスコ協会」が似たような活動をしているので、連携できれば良い。

- ・自分たちの生活に関係したものとして、健康面でのアドバイスや人と人との繋がりなど、行政や自治会が行っている合間を縫ってEC千葉ができることをおこなうのかな？

- ・テーマとして、非常時の備えとか外出先での避難コースなどや、健康と食、健康体操がある。自分とまわりをどのようにとらえるか？ を考えるヒントになる。

- ・増えている高齢者や独居者を見守りサポートするAIソフトウェアの開発を考えている。レノボがおこなうアイデア募集(コンペ)に申し込みし、コンペに参加できるようになった。ソフトウェアが開発できれば、市町村に対しても活用を働きかけできる。

- ・高齢者だけではなく若者においても、健康診断の結果とその後の対応が大事である。

- ・高齢者に対し、高崎市では見守りセンサーを提供している。

- ・高齢者や独居者の見守りサポートは、家族にもメリットがある。

- ・生活環境のテーマは幅広い。EC千葉会員でテーマに対しての専門家がどのくらいいるか？ 専門知識がないとできないものと知識がなくてもできるものとを整理して動く。選択と集中が大事。

地域の課題対策として、ごみでポイ捨てが多い所を調査し、ポイ捨て防止活動に取り組むのも一例である。

- ・千葉県庁でもウェルビーイングを進めることで、ウェルビーイング推進室がおかれている。訪問して意見交換できると良い。

- ・生活環境のテーマは広い、絞る必要がある。起案者が決めて、その次に具体策を考える。

- ・フィットネスクラブの立ち上げを検討している。千葉県から補助がでる。このような動きが。

- ・高齢者は移動手段や買い物に困っている。いい方法がないか？
⇒千葉県内で地区ごとにどのようなになっているか調査して EC 千葉のホームページに載せるサービスはどうか？
- ・健康と食については、行政に保健福祉センターがあり、定期的に体操や食事や調理教室を開催している。行政の中でもこのようなテーマに一環して取り組んでいる。行政と並行して、EC 千葉は何をするのかをこれから決める必要がある。

2. 今後の進め方と方法

- ・テーマが広いので選択と集中が大事。できるところから2～3つ選びスタートし発展させる。
例えば、4つ目の地域の生活環境問題への対応で、ポイ捨て対策など、簡単に皆が取り組めるテーマから始めると良い。
- ・生活環境というと広い面でとらえているが、出てきた各テーマを一つ一つ吟味していく中で、集約されてくる。
- ・まだ、皆さんどのように取り組むのかまだよくわからないので、このような会議を何回かやっていき、皆さんに情報を発信していき、情報を共有化する。たとえば、EC 千葉の HP に掲載場所を作って活動などを載せていくのは如何か？
- ・実態やニーズの把握と EC 千葉の対応可能な活動のマッチング。まずはやってみる。各市へ入り込んで情報を入手することが必要。千葉県全体で市町村によって格差がある。
- ・エコメッセでは生活環境グループのポスターを掲示し、来場者との会話を通してニーズを調査する。
- ・高齢者の見守り。自治体の現状調査。
- ・起案者(理事長)がテーマを1～2選んで進める。
- ・やる気がある人と理事長が推進を。
- ・自治会でおこなっている回覧は古い。若い人は Line を活用している。
- ・高齢化が進んでいる。見守りとともに、行政のシステムを調査する。
- ・EC 千葉の行動パターンとして、例えばゴミを直接拾うのではなく、ボランティア団体への問題解決サポートも考えられる。
- ・学生のボランティア参加の活用も考えられる。

■生活環境グループで取り組む概要テーマ

1. 生活の安心・安全
2. 健康と食
3. 子どもや高齢者の居場所
4. 地域の生活環境問題への対応

(記)井町臣男

EC 千葉会員のみならず、多くの方々からのご意見やご感想をお待ちしております。

[連絡先] EC 千葉事務局: ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp

ご参考

生活環境グループの取組み

	取組むテーマ	具体的なテーマ	備考
1	生活の安心・安全	非常時の備え 外出先での避難コース 風呂敷の有効活用 犯罪対策(住居、自身) 災害対策(地域、個人) 水質:PFAS(PFOS、PFOA)	
2	健康と食	健康体操 身近なウォーキング(散歩)コース 健康食とは何か? 良い睡眠をとるには	
3	子どもや高齢者の居場所	子ども食堂の課題と対策 高齢者が乐しめ安らぎのある居場所づくり SDGsクイズ大会 弱者(障害者等)への活動支援	
4	地域の生活環境問題への対応	空き地の雑草対策やポイ捨て対策 歩道の危険箇所・障害物のチェック活動 街路樹の植樹・育成 千葉の魅力向上運動 自治会活動への参加 (食品ロス削減、生ごみ排出削減、節水等) リチウム電池廃棄方法の統一化 有害外来植物	
5	その他	生物多様性 絶滅危惧種	
6	ニーズ調査	・県および地元市町の政策のサーベイ ・県および地元市町との対面での聞き取り調査	
	(事前準備)	ホームページ・ポータルサイトの立ち上げ	

EC 千葉会員のみならず、多くの方々からのご意見やご感想をお待ちしております。

[連絡先] EC 千葉事務局: ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp